

各関係機関・団体長 様

愛媛県病虫害防除所長

発生予察情報について（送付）

病虫害発生予察注意報（第4号）を下記のとおり発表したので送付いたします。

令和2年度 病虫害発生予察注意報（第4号）

令和2年8月6日

愛媛県

病虫害名 いもち病（葉いもち、穂いもち）

作物 水稲（早期栽培、普通期栽培）

1 発生地域 県下全域

2 発生程度 やや多～多

3 注意報発表の根拠

- 7月の定点調査の結果、発生圃場率、発病度ともに平年より高く、多の発生となっている（表1）。
- 広域調査結果では、葉いもちの発生圃場率は平年の約1.6倍と、過去10年で3番目に高い（図1）。また、地域別では中予及び南予地域での発生が多くなっている（表2）。
- BLASTAM（気象条件を基に葉いもちの感染しやすい日を推定するシステム）では、7/10～7/17に感染好適条件が、7/23～7/30に準感染好適条件が多く出現しており、梅雨期間が長くなったことで好適な感染条件となった。
- 1か月予報（7月30日発表）では、平均気温は高い、降水量は平年並か少ない、日照時間はほぼ平年並とされており、発生にはやや抑制的である。

4 防除上の注意

- 本病に弱い品種や常発地、育苗箱施用剤を使用していない圃場では、圃場を定期的に観察し、葉いもち（写真左）の発生に十分注意する。
- 葉いもちの発生が認められる圃場では、穂ばらみ期～出穂期に本病に有効な薬剤を散布する。
- 山間部等の発生圃場においては、新葉で新たな病斑形成（病勢の進展）が見られた場合には、治療効果の高い薬剤で速やかに防除する。
- 置き苗は発生源となるので除去する。

表1 定点調査における葉いもちの発生状況（令和2年7月）

作型	発生圃場率(%)		発病度	
	令和2年	平年	令和2年	平年
早期栽培	50.0	20.3	1.15	0.85
普通期栽培	21.1	7.2	0.61	0.08

1)平年値:H22～R1の10年の平均

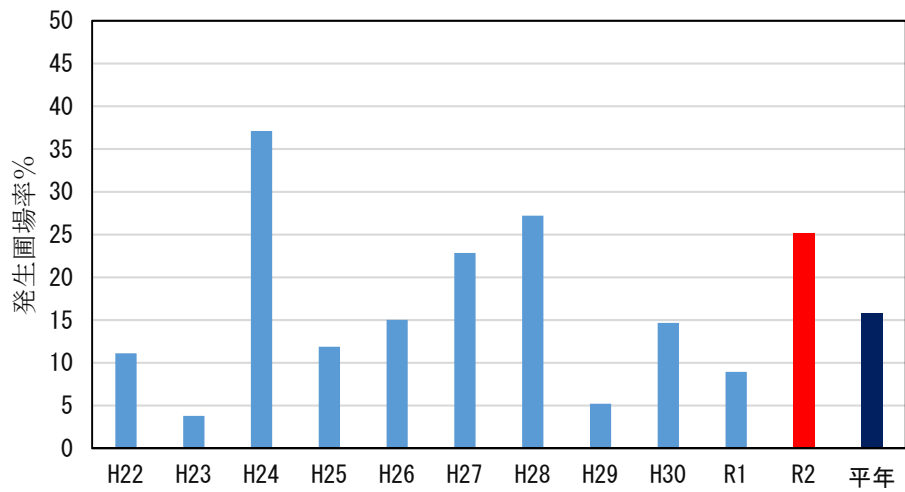


図1 広域調査における葉いもちの年別発生状況(7月調査)

表2 広域調査における葉いもちの地域別発生状況(令和2年)

地域	調査圃場数	発生圃場率(%)
東予	156	13.5
中予	174	33.3
南予	52	32.7
県全体	382	25.1
平年	231.2	15.8

1) 平年値: H22~R1の10年平均

2) 調査は7月7日~31日に実施



写真 左: 葉いもち 右: 穂いもち